

**地域分権制度の論点に係る地域夢・未来カフェ意見整理
(速報)**

平成 25 年 2 月 27 日

川西市総合政策部地域分権推進課

目次

1. 地域の範囲について	3
2. 合意形成の仕組みについて	3
3. 権限や財源の移譲先となる組織について	4
4. 自治会について	5
5. 活動主体が連携する仕組みについて	7
6. 担い手の確保について	7
7. 学校との連携について	8
8. 志縁団体(テーマ型団体)との連携について	9
9. 事業者との連携について	10
10. 情報の共有について	10
11. 活動場所について	11
12. 地域担当職員について	12
13. 権限について	14
14. 法的な問題について	15
15. 地域へ移譲すべきでない権限について	15
16. 財源について	16

17. 責任について	17
18. 活動の有償化について	17
19. 市に求めるものについて	18
20. その他	20

1. 地域の範囲について

- ・小学校区を基本としたコミュニティ推進(連絡)協議会の範囲
- ・地域夢・未来カフェを概ね小学校区ごとに開催したこともあり、現在のコミュニティを基本とする小学校区との意見が多数
- ・一方で、自治会数が多い小学校区では、意見集約ができるか不安であるとの声もあった。

<カフェで出された主な意見>

- ・現行の5%の選択枠のため、居住地は同じであっても別の小学校に通っていることがある家庭などは、違う学校の子ども会活動に参加してしまうなど、活動がしにくい(川西北)
- ・フィールドは学区内(桜が丘)
- ・自治会が多いところは意見がまとまるか?(明峰)
- ・小学校区という大きさはいかがなものか(明峰)
- ・地域の範囲を明確にしたほうが一体感が出る(多田、川西北)
- ・小学校区(川西)
- ・小学校区をまたいで活動している団体もある 防犯協会など(多数)

2. 合意形成の仕組みについて

- ・地域全体の意見をまとめることは難しいのではないかと懸念する声が多く聞かれ、合意形成の具体的な仕組みについてはほとんど意見が出ていない。

<カフェで出された主な意見>

- ・地域全体の意見を担保する仕組み(桜が丘)
- ・自治会が多いところは意見がまとまるか(明峰)
- ・非自治会員から委任される形で担保がとれるか(川西北)

3. 権限や財源の移譲先となる組織について

- ・コミュニティ推進(連絡)協議会を基本として、現在のコミュニティの再編成やその他の団体等を巻き込むことにより、新組織として機能させようという意見が多い。
- ・いかにして地域全体を代表する組織でありうるか、非自治会員をどう巻き込んでいくかということについて課題が指摘された。
- ・非自治会員の意見を聞く必要があるのかという疑問の声も少なからずあった。
- ・また、移譲先となる組織についても活動費が必要であり、相当額を市から交付する必要があるとの声もあった。

<カフェで出された主な意見>

- ・各団体が連携できるような組織(北陵)
- ・各主体が十分に話し合える場(明峰)
- ・各主体が参加していること(桜が丘、東谷)
- ・地域全体を包括する組織(多田東)
- ・地域の代表制が担保できる組織(桜が丘)
- ・情報が一元化されるような組織(明峰)
- ・価値観の違う人が集まれるような組織(東谷)
- ・コミュニティ(加茂、東谷)
- ・既存の組織で考えるとしたらコミュニティ(緑台・陽明)
- ・コミュニティ活動の見直し、再編成(多田東)
- ・コミュニティが核になる(多田東、けやき坂)
- ・コミュニティへの多組織の集約(多田東)
- ・コミュニティが中心となって、いろいろな団体に働きかけていく(川西)
- ・プロジェクトに応じて、関連団体に働きかけていく(川西)
- ・コミュニティ推進協議会から、必要なメンバーで準備委員会を立ち上げる(多田東)
- ・コミュニティが中心だが、活動主体は生活に密着した自治会(明峰)
- ・自治会の中にある色々な部会を活かす(明峰)
- ・各団体から人員選出し、活動項目を協議する(多田東)
- ・非自治会をどう巻き込むか(明峰)
- ・自治会非加入でも興味がある人を募る(桜が丘)
- ・現在のコミュニティに、非自治会員を参画させると意見の対立が生じる(川西北)
- ・一般公募する(多田東、東谷)
- ・公募を入れるべきかどうか悩ましい(桜が丘)
- ・組織構成を考える必要がある(明峰)

- ・企画・総務部門が必要(緑台・陽明、桜が丘)
- ・若者部、青年部を作る(多田東、東谷)
- ・ケースごとに受け皿を変えてもよい(明峰)
- ・事業ごとに活動主体が変わる(明峰)
- ・有志が集まる(明峰)
- ・素人ばかりの集まりでは知識不足(多田東)
- ・他の団体との違いを明確に(北陵)
- ・受け皿組織に NPO 等が入るのは難しいが、取組みベースで関わってもらう(東谷)
- ・受け皿組織にも活動費が必要である(川西北)
- ・行事を多く持ちすぎない(明峰)
- ・新たな組織を作る場合は、市が責任をもって設立してほしい(川西)

4. 自治会について

- ・地域分権制度は、自治会加入率が高いことを前提として成り立つ制度であると考えられるので、自治会加入率向上のために、市も積極的に取り組んで欲しいとの声が非常に強い。
- ・自治会加入のメリットを明確に打ち出すことが重要であるとの意見も多い。
- ・一つの自治会が小学校区をまたいでいる場合もあり、自治会としてのまとまりが欠けやすいとの指摘があった。
- ・役員の負担が増大しているという声がある一方、任期を伸ばさなければ十分な活動ができないという声もあった。
- ・一部地域で、自治会の大きさが適切でないという声もあった。

＜カフェで出された主な意見＞

- ・地域分権制度は、自治会加入率が高いことを前提として成り立つ制度ではないか(川西北)
- ・自治会加入率アップに、市が積極的に取り組んでほしい(川西北)
- ・自治会加入、退会防止策をつくる(明峰)
- ・自治会加入について不動産業界への働きかけ(加茂)
- ・市職員の自治会加入の徹底(川西北)
- ・新しく入居した人が自治会に入らない(桜が丘)
- ・マンション全体ではなく、一軒ごとに参加できるようにする(加茂)
- ・自治会に加入するメリットを明確にする(加茂、明峰、多田東、北陵)

- ・自治会を通じて安く手に入れられるものがあれば 例 ゴミ袋（川西北、加茂）
- ・自治会員が優待を受けられる仕組みをつくる（北陵）
- ・ごみ収集所を使わせない（川西北）
- ・自治会非加入者などに情報が届かないのが問題（川西、けやき坂、桜が丘、清和台）
- ・自治会のPRへの市の支援（東谷）
- ・自治会によって温度差がある（桜が丘）
- ・自治会区域と民生委員区域が異なる（桜が丘）
- ・自治会が学区の関係で分裂している（桜が丘）
- ・自治会へアドバイザーを派遣してはどうか（桜が丘）
- ・高齢者の負担軽減（牧の台）
- ・市が広報をしっかりしないから、会長に問い合わせがくる（多田東）
- ・自治会役員はコミュニティの役員もしなくてはならず大変（多田）
- ・役があつたときの負担が大きい（加茂）
- ・役員任期が短いので活動が続かない（桜が丘）
- ・任期を短くすると継続性に問題がでる（加茂）
- ・自治会長の任期が短く、加入促進できない（東谷）
- ・自治会長の任期が短く、コミュニティとの連携が弱い（東谷）
- ・自治会への市から補助を増額できないか（加茂）
- ・機材・資材の提供が良い（加茂）
- ・自治会報償費の報告の簡素化（加茂）
- ・自治会費が高い（牧の台・多田東）
- ・自治会費が高いことを理由に退会する人が増えている（加茂）
- ・自治会費ゼロにできる仕組みを考える（清和台）
- ・収益をあげて、住民の負担を減らす（清和台）
- ・自治会費という名前を変える。見守り掛け金（明峰）
- ・自治会を今より大きくする（川西北）
- ・自治会が大きすぎるので、分割してはどうか（北陵）
- ・自治会空白地帯がある（東谷）
- ・自治会報を出していないところもある（川西）
- ・自治会と子ども会の単位が異なる（久代）
- ・青少年センターの見回りは、自治会の青パトで実施すれば良い（久代）
- ・自治会と民生委員の役割分担が明確でない（桜が丘）
- ・準会員の制度を設けている（北陵）

5. 活動主体が連携する仕組みについて

・多様な団体・個人が連携するために、コーディネーターが必要であり、公民館や市民活動センターの活用や機能充実を求める声があった。

<カフェで出された主な意見>

- ・井戸端会議が少ない(加茂)
- ・市民活動センターは、地縁団体とのつながりが弱い(川西)
- ・コーディネーターが必要(川西北)
- ・行政、地区福祉委員会、自治会をどうつなげていくか(桜が丘)
- ・交流会館及び公民館活動の充実(けやき坂)
- ・公民館に誰でも参加できる喫茶室を設置(北陵)
- ・サークル等も簡単に地縁団体の活動に参加できるように(多田)

6. 担い手の確保について

・地域別に人材バンクを結成し、人材をコーディネートする仕組みをつくるべきであるとの意見が多く聞かれた。

・担い手不足を補うため、類似イベントなどを一本化し、効率化、省力化を図るとともに、地域活動への入り口をわかりやすくして参加者を増やすことが必要との意見があった。

・「学生や現役世代は忙しい」ということを前提とした呼び込み方を考えるべきであり、それらの世代に頼りすぎないことが重要であるとの意見もあった。

・また他地域事例を学ぶことや、普段からつながりをつくっておくことが必要であるとの声もあった。

<カフェで出された主な意見>

- ・人材は沢山いる(北陵、東谷)
- ・地域の人材を発掘することが必要(加茂、久代)
- ・人材バンクをつくる(明峰、けやき坂、多田、多田東、東谷、桜が丘、緑台・陽明、牧の台)
- ・地域住民の人材バンクの取組み拡大(北陵)
- ・ボランティア登録制度(多田)

- ・地域ボランティアの育成(川西北)
- ・人材をコーディネートする仕組み(久代)
- ・地域リーダーの育成(けやき坂)
- ・類似イベントの一本化(緑台・陽明)
- ・地域への入り口をわかりやすくする(清和台)
- ・団塊世代の地域とのつながりづくり(多田東)
- ・元気が地域に入れられない男性など、高齢者を勧誘するシステム(緑台・陽明)
- ・ボランティア募集のパンフレットを全戸配布する(緑台・陽明)
- ・若い人が入ってこない(桜が丘)
- ・若い世代は、地域活動の様子がわからないので、参加するまで不安(北陵)
- ・働き世代に頼りすぎると参加しなくなる(加茂)
- ・高齢者の活用(緑台・陽明)
- ・中高生への呼びかけ(けやき坂)
- ・中学生は既に参加しているので、高校生、大学生へと拡大していく(多田東)
- ・若い人は時間がないことを前提とした取組みが必要(多田)
- ・他の地域の事例を勉強(多田)
- ・事業者(大型スーパー)との連携を求める声がある。(清和台、緑台・陽明)

7. 学校との連携について

- ・どの地域でも子育て関連の取組み、あるいは子どもを介した地域のつながりに関する取組みについての関心が高く、学校特に小学校との連携を望む声が多かった。また、小学校の空き教室やグラウンドを地域活動の活動場所として利用させてほしいとの要望も多い。
- ・学校便りに地域のことを掲載したり、学校のサイトと地域のサイトの相互リンクを設定したりするなど、情報共有に関する連携要望の声もある。

＜カフェで出された主な意見＞

- ・小学校のグラウンドや体育館の使用(久代)
- ・中学校のとらいやるウィークとの連携(久代)
- ・安全面・環境整備等では学校と地域の連携がうまくいっている(久代)
- ・小学校のサイトはよく閲覧されているので、相互リンクを設定(桜が丘)
- ・小学校との連携強化、学童保育(けやき坂)

- ・園庭開放、一時預かりの充実(けやき坂)
- ・園庭開放やママ友づくりを進める(多田東)
- ・空き教室でこどもの面倒をみる(緑台・陽明)
- ・空き教室で保育園を開設(緑台・陽明)
- ・小学校の一部を地域の交流スペースとして有効活用(牧の台)
- ・学校と地域とのつながりが薄い(桜が丘)
- ・小学校との連携(緑台・陽明・牧の台・けやき坂)
- ・学校便りに地域のことを掲載(牧の台)
- ・学校の放送部と連携してFM局を作る(北陵)
- ・地域に開いた学校づくり(多田東)
- ・学校行事を地域の人が見られるように(多田東)
- ・とらいやるウィーク終了後も交流が続くようにしたい(多田東)
- ・学校(小・中・高)との交流(多田東)
- ・高校との連携が薄い(東谷)
- ・大学との連携(川西)
- ・青山短期大学(栄養、子育て)、宝塚大学(デザイン、看護)との連携(北陵)

8. 志縁団体(テーマ型団体)との連携について

・無償を前提とした地域活動への限界は感じているものの、NPO 法人をなどのテーマ型団体との連携には消極的な面も見受けられる。すでに一定程度連携している子ども会、老人クラブといった準地縁系団体以外には、そもそも地域夢・未来カフェでは、テーマ型団体との連携についてはあまり議論に上っていない。

＜カフェで出された主な意見＞

- ・1人暮らしや寂しい人の話し相手(けやき坂)
- ・老人クラブとの連携(緑台・陽明)
- ・NPOが関われるのか(多田東)
- ・ボランティアでは限界(明峰)
- ・NPO 側のスタンスと思いにもよる(東谷)

9. 事業者との連携について

- ・事業者との連携の必要性については、14地域のうち5つの地域で意見が挙がった。チラシの掲示など比較的軽微なものもあれば、空き店舗の提供など事業者側に十分な理解を得ることが必要となるものもあった。
- ・行政に地域と事業者との間をつないでほしいという声も上がっている。

＜カフェで出された主な意見＞

- ・空き店舗を地域のスペースに(清和台)
- ・商店会の意見を聞く(緑台・陽明)
- ・銀行との折衝(緑台・陽明)
- ・各店舗の努力だけでは限界(牧の台)
- ・事業者同士の連携(牧の台)
- ・商店会と地域の連携(牧の台)
- ・J-COM に放映してもらおう(牧の台)
- ・駅にチラシを貼る(多田東)
- ・スーパーにチラシを貼る(多田東)
- ・タクシー会社、バス会社との連携(明峰)
- ・行政が間をつなぐ(明峰)

10. 情報の共有について

- ・現状では、必ずしも情報の共有が十分に行われているとは言えず、住民が常に情報に触れ、共有できるような仕組みが必要であるとの意見が出された。
- ・若者をはじめとして、地域住民が地域のことを十分にわかっていないと考えられることから、地域情報の点検を行うことが必要との声もあった。
- ・また、情報弱者となりやすい人たちや、非自治会員についても、多様な媒体を活用して情報の共有を図る方法を検討すべきとの意見が多く挙がっている。
- ・発信力強化のため、市に研修を求める声もあった。

<カフェで出された主な意見>

- ・情報が常に共有できる仕組み(明峰)
- ・住民が地域の情報に触れられるように(桜が丘)
- ・コミュニティに情報が一元化されていない(明峰)
- ・地域は地域の良さを知らない(東谷)
- ・既にやっている取り組みは多いが、知らない人が多い(緑台・陽明)
- ・回覧板が回ってきたころには行事が終わっている(北陵)
- ・地域の情報の点検(加茂)
- ・情報が不足している(けやき坂)
- ・若者が地域をしらない(多田)
- ・市からの情報提供を充実(明峰)
- ・情報が行き届かない人への対応(北陵)
- ・独居老人や障害者へも伝わるように(緑台・陽明)
- ・自治会員にしか情報がまわらない(川西)
- ・自治会が何をしているのかわからない(北陵)
- ・非自治会員の情報不足(多田東)
- ・非自治会員に回覧板は回しにくい(加茂)
- ・自治会未加入者にどう伝えるかを考える(清和台、けやき坂、久代)
- ・若い世代は、地域活動の様子がわからないので、参加するまで不安に感じている(北陵)
- ・個人情報かわからない(明峰、桜が丘、けやき坂、緑台・陽明)
- ・名簿を作っても外に出せない(多田)
- ・退職する年代の人を引き込もうにも、誰がその年齢かわからない(明峰)
- ・コミュニティ活動の発信方法の工夫(けやき坂)
- ・案内文の書き方を行政に研修してほしい(久代)
- ・地域のホームページ(けやき坂)
- ・掲示版の活用(加茂)
- ・SNSの活用(東谷)

11. 活動場所について

- ・拠点がなく、役員の自宅が事務所化しているという声もあるなか、自治会館やコミュニティセンター、その他の施設の利便性向上を求める声があった。
- ・また、複数の地域で、増加しつつある空き家、空き地、空き店舗の活用を求める声が挙がっている。

<カフェで出された主な意見>

- ・集会以外でも集まれる場所が必要(川西)
- ・役員の自宅が事務所化している(桜が丘)
- ・地区福祉委員会の拠点がない(桜が丘)
- ・自治会館等の活用(けやき坂)
- ・コミュニティセンターの利便性向上(多田東)
- ・予約のために、コミュニティに事前申請が必要であるなど、利用しにくい(多田東)
- ・対象者を限定している施設の一般開放(老人福祉センター、児童センター)(緑台・陽明)
- ・公民館の活用(川西北、北陵)
- ・空き地(市有地)の活用(桜が丘)
- ・空き地に拠点を建てる(桜が丘)
- ・空き家を活用(加茂、北陵、緑台・陽明)
- ・空き家の活用(明峰)
- ・空き店舗の活用(牧の台、緑台・陽明)
- ・空き家、空き店舗を貸すと固定資産税が減免されるなどの工夫を(明峰、緑台・陽明)
- ・個人の家 泉北ニュータウン方式(緑台・陽明)
- ・小学校を地域の交流スペースとする(牧の台)
- ・小学校のグラウンドや体育館の使用(久代)
- ・行けば情報が得られるような拠点(久代)

12. 地域担当職員について

- ・**地域担当職員のあり方については、ベテラン職員を望む地域もあれば、若い職員を望む地域もあるなど、地域によってさまざまな意見があるが、それだけ地域担当職員に対する期待が大きいものであると感じられる。**
- ・**市の他の部署や社会福祉協議会も地域担当制を敷いているので、それらの職員との関係をどう考えるか、整理が必要である。**
- ・**また、担当職員は必ずしも市の職員でなくてもよいのではないかという意見もあった。**

<カフェで出された主な意見>

- ・提案制の地域活動(桜が丘)
- ・行政と地域をつなぐ役割を果たす(桜が丘)

- ・社協と市の担当職員との役割分担(桜が丘)
- ・知識と経験のある市のOBや再任用を活用(桜が丘)
- ・ベテランすぎる人はダメ(明峰)
- ・よく動く、若い人(加茂)
- ・地域出身の市職員 OB が良い(東谷)
- ・若い人では無理(東谷)
- ・ある程度権限を持った人(川西北)
- ・スピード感を持って対応すること(桜が丘)
- ・提案力、主導力のある人(桜が丘)
- ・地域での人脈が作れる人(加茂)
- ・庁内の連携が取れる人(加茂)
- ・銀行との折衝(緑台・陽明)
- ・地域からの相談にのる(けやき坂)
- ・情報管理の徹底(けやき坂)
- ・先進事例の視察・研究(けやき坂)
- ・現状を知る(多田東)
- ・専門分野に長けた人(多田東)
- ・市の各部署及び県などに対して折衝を行う(多田東)
- ・任期を長くしてほしい(多田東)
- ・リーダーシップの把握(多田東)
- ・苦情を聞くだけではない(多田東)
- ・プロジェクトのバックアップ(明峰)
- ・すぐ動いてくれる人(明峰)
- ・コミュニケーションスキルのある人(明峰)
- ・アイデアのある人(明峰)
- ・地域の話聞く(明峰)
- ・地域の立場にたつ(明峰)
- ・先進事例の情報(久代)
- ・市民感覚(久代)
- ・金銭管理を行う(北陵)
- ・地域や地域の課題を知っている人(北陵)
- ・地域の外の人で、客観的視点を(北陵)
- ・地域の拠点に常時いてくれる人がいい(東谷)
- ・地域担当職員はお目付け役(川西北)
- ・地域担当職員へ要望が殺到することが懸念される(川西北)
- ・助成金情報を収集する(東谷)
- ・他の所管の職員との役割分担 た例えば防災の担当職員などをどうするか

- ・市の職員じゃなくてもいい(東谷)
- ・地域の中からコーディネーター役も(東谷)
- ・将来的には不要になるかもしれないが、分権制度への移行時期には必要(東谷)

13. 権限について

- ・公園に関する要望は強く、禁止事項等の緩和や維持管理を地域に任せて欲しいといった意見が多くみられた。
- ・道路や公民館等の公共施設を地域に管理させてほしいとの意見が多く挙がった。
- ・カフェでは具体的な名称は出なかったが、地域が引き受けられることは多くあるとの意見もあった。

<カフェで出された主な意見>

- ・公園で火を使えるように(けやき坂、北陵、緑台・陽明)
- ・公園でフリマ(けやき坂)
- ・ボール遊びができる公園(多田東ほか多数)
- ・公園の使用制限の緩和 犬の散歩、ジョギング、体操など (緑台・陽明)
- ・公園をもっと地域で管理していく(北陵)
- ・公園を使いやすいように地域で考える(加茂、緑台・陽明)
- ・公園の地域運営 貸しポート、カフェなど(北陵)
- ・公園の維持管理(加茂、緑台・陽明)
- ・街路の維持管理(緑台・陽明)
- ・道路の使用許可(牧の台)
- ・もっと地域で引き受けたいものもある(緑台・陽明)
- ・地域で公共施設を維持管理(加茂)
- ・老人福祉センターの管理 現在は社協が指定管理(緑台・陽明)
- ・駐輪場の管理(追加)
- ・公共施設の管理(公民館、郷土館、公園など)(東谷)

14. 法的な問題について

・「13. 権限について」で掲載したものに係る法令のほか、各地域での取組みに際し、いくつかの法令が障壁となっているという指摘があり、適用除外や、一時的な解除を求める声がある。

＜カフェで出された主な意見＞

- ・規制や条例をその時だけ解除してほしい(北陵)
- ・個人情報かわからない・・・個人情報保護法(明峰ほか多数)
- ・白タクにならないように・・・道路運送法(明峰)
- ・有料コミュニティバスは陸運局の許可が必要・・・道路運送法(緑台・陽明)
- ・敷地面積の下限規制・・・都市計画法、建築基準法(牧の台)
- ・防災無線を他の分野にも使用・・・電波法(北陵)

15. 地域へ移譲すべきでない権限について

・シビル・ミニマムと考えられるものや、長期的な視野が必要となるもの、また、大きな責任が生じる恐れのあるものなどは、これまでどおり行政で行うべきとの意見があった。

＜カフェで出された主な意見＞

- ・長期的視野に立って解決する課題(多田東)
- ・消防(多田東)
- ・個人情報に関すること(多田東)
- ・重大な責任がとまうもの(多田東)
- ・事故につながるおそれのあるもの(多田東)

16. 財源について

- ・地域の人が無償で行っている活動とほぼ同様の活動に対して補助金が出ているとの声があり、各補助金等の見直しが求められている。
- ・一括交付金と予算提案型の長短を把握したうえで、地域の実情に応じた選択が必要との意見があった。
- ・繰越しを可能にしてほしいとの声や、使途制限の緩和を求める声が強い。
- ・手続きの簡素化を求める声とともに、監査のあり方が重要であるとの声もあった。
- ・1地域当たり数百万円が移譲されると考えているような雰囲気を感じられた。
- ・また、一部には、市からの補助金はあてにしていないという意見もあった。

<カフェで出された主な意見>

- ・補助金を効率的にまとめていく(明峰)
- ・各種助成を整理すべき(緑台・陽明)
- ・物品よりも金銭がよい(明峰)
- ・いきなり予算を渡されても、どうしていいかわからない(東谷)
- ・一括交付金の方が使い勝手が良いが、どう使い方を決めるかが難しい(東谷)
- ・多額のお金を使いこなせる力量がない(東谷)
- ・申請制ではなく人口按分で確実に地域に予算を(清和台)
- ・予算提案型は具体性が高いが、市の関与も高い(東谷)
- ・繰越可能にしてほしい(清和台、東谷、多田東、明峰ほか多数)
- ・基金として残す(多田東、緑台・陽明)
- ・使途制限を緩くしてほしい(多田東)
- ・交付金に地域のお金を追加できるか(緑台・陽明)
- ・ハード(自治会館の整備等)に使用できるか(川西北)
- ・保険に充当できるか(加茂、けやき坂)
- ・申請手続き、報告書等の簡素化(加茂、清和台)
- ・監査できる機能が大切(明峰)
- ・チェックは身内ではなく行政で(明峰)
- ・行政のカバーできない部分を委託(川西)
- ・公園の清掃も有償にしてほしい(東谷)
- ・市からの補助金はあてにしていない(緑台・陽明)

17. 責任について

・一定の権限や財源の移譲に伴い、責任も地域が負うことになるということについて、ある程度理解は得られている様子である。地域で負う責任を軽減させるために、保険に加入しておくことなどが対応として挙げられた。また、地域活動等への参加者は自己責任のもと参加すべきとの声もあるが、重大な責任の伴うものについては、そもそも地域に移譲すべきでないという意見もあった。

＜カフェで出された主な意見＞

- ・保険の問題（緑台・陽明ほか）
- ・活動保険（牧の台、けやき坂）
- ・何かあったときに責任をどうするか（けやき坂）
- ・重大な責任の伴うものは移譲すべきでない（多田東）
- ・参加者は自己責任で（多田）

18. 活動の有償化について

・有償ボランティアの必要性については、多くの地域で意見があがっており、一定程度理解が得られているものと思われる。ただし、金銭目的に地域活動を行うことに対する違和感も少なからず残っている様子である。

・また、現行の地域活動を有償にした場合、かえって活動しにくくなることを懸念する声もある。

・有償ボランティアについて、地域が直接雇用するのではなく、市が募集・雇用し、地域が人材管理を行うのはいかがでしょうかというアイデアも挙げられた。

＜カフェで出された主な意見＞

- ・ボランティアスタッフに食事代くらい出したい（久代）
- ・有償ボランティア（桜が丘、加茂、川西北、多田、明峰、牧の台、けやき坂、緑台・陽明）
- ・だいわチケット実行委員にも報酬を（牧の台）
- ・ちょっとしたお金をもらえる（けやき坂）

- ・お金をとると運営が難しくなるという面もある(明峰)
- ・お金が回るしくみをつくる(多田)
- ・コミュニティビジネス化
- ・ポイント制の導入(多田)
- ・有償ボランティア⇔生きがい(東谷)
- ・「お金が貰えるからする」というのではダメでは?(北陵)
- ・市が募集、雇用し、地域が人材管理(北陵)

19. 市に求めるものについて

- ・市の方針を明確にし、地域への情報提供をしっかりと行ってほしいとの意見があった。
- ・タテわり体質からの脱却と、地域の実態に合うように既存の行政組織や業務を見直すことを求める声もある。
- ・地域に出張所を設けて地域の拠点とし、若手課長に事務局長を任せて機動的な支援を行ってはどうかというアイデアもあった。
- ・地域と事業者、大学、行政機関をつなぐ役割を求める声も多い。
- ・市に求める声ばかりが多く、地域分権制度のもの、住民自らやるものだという意識がまだまだ希薄な地域も見られる一方、どうしても必要になったときだけ、市が力を貸してくれればよいという地域もあった。

＜カフェで出された主な意見＞

- ・市は地域へ情報提供し、地域の中は情報共有を進める(明峰、多田東)
- ・市の取組みを広く広報する(加茂)
- ・知らない市のメニューが沢山ある(加茂)
- ・何か地域が取組みを行う際には、市の担当課の考え方を明確にすること(加茂)
- ・市の方向性をしっかり広報する(多田東)
- ・老人福祉センターの機能見直し、有料化(緑台・陽明)
- ・老人を削除して「福祉センター」に(緑台・陽明)
- ・公園遊具を住民ニーズにあったものに(緑台・陽明)
- ・公園機能の整理が必要(明峰)
- ・行政窓口の一本化(多田東)
- ・タテ割り体質からの脱却(明峰)

- ・自治会と福祉委員会の所管が違うので連携しにくい(桜が丘)
- ・地区福祉委員会の活動に担当職員が参加してほしい(桜が丘)
- ・既存の組織や事業を見直す(川西)
- ・市のOBの活用(桜が丘)
- ・地域に出張所をつくり、事務局に権限を与える(桜が丘)
- ・若手課長級の行政職員が事務局長になる(桜が丘)
- ・事務局でプロジェクト選定や予算配分(桜が丘)
- ・空き地に拠点を建てる(桜が丘)
- ・活動保険(加茂)
- ・PR誌、アンケート等の費用負担(加茂)
- ・民生委員の定員増(緑台・陽明)
- ・民生委員のサポーターが必要(牧の台)
- ・空き家所有者に市からコンタクト(牧の台)
- ・個人情報保護についての研修講座(牧の台)
- ・地域のホームページ(けやき坂)
- ・市の広報版を使わせてほしい
- ・公民館に事務局設置(けやき坂)
- ・公民館講座で勉強(けやき坂)
- ・公民館の利便性の向上、利用時間の延長(清和台)
- ・保育所との連携(多田東)
- ・大学とのつなぎ(けやき坂)
- ・事業者への働きかけ(多田東)
- ・警察など他の行政機関との連携
- ・地域分権制度移行後の監査(明峰)
- ・自治会加入促進(多田東)
- ・自治会加入について不動産業界への働きかけ(加茂)
- ・市職員の自治会加入の徹底(川西北)
- ・自治会のPRへの市の支援(東谷)
- ・どうしても必要になったときだけ支援してくれればよい(北陵)

20. その他

・その他として、次のような意見も挙げられた。

＜カフェで出された主な意見＞

- ・公民館長は、地域を良く知っている人に(東谷)
- ・行政の視点と地域の視点が違う(明峰)
- ・無償である程度カバーできるものもある(明峰)
- ・国・県・市の補助制度の窓口が分かれており、申請しにくい(緑台・陽明)
- ・各団体の統合が必要(牧の台)
- ・地域分権制度と議会との関係(東谷)